

愛媛大学

平成27年度土木海洋会だより

— 第21号 —

石鎚連峰



瀬戸内海

Mine Engineering
Civil Engineering
Ocean Engineering
Civil & Ocean Engineering
Civil & Environmental Engineering

目 次

ごあいさつ	(会 長 友近 榮治 土木48年卒).....	1
学科だより	(副会長 環境建設工学科 学科長 森脇 亮).....	2
新任教員の挨拶	(助 教 白柳 洋俊).....	5
支部だより	(関東支部幹事長 武名 裕史 海洋57年卒).....	6
	(近畿支部監事 藤原 隆一 海洋56年卒).....	9
	(中国支部幹事長 國富 將嗣 土海H 8年卒).....	12
	(愛媛支部幹事長 藤田 康司 土木H 4年卒).....	14
同窓会報告		
	(豊國先生を囲む会).....	18
	(鈴木先生を囲む会 2015)	20
	(現役学生とOB・OGの情報交換会)	21
	(国土交通省四国地方整備局 愛媛大学卒業生懇親会).....	22
	(昭和52年海洋工学科入学同窓会).....	23
	(S 39・42年卒稲毛会&東京三大銅像).....	26
平成27年度総会報告		28
会計報告		31
事務局だより		34

会長就任のご挨拶

会長 友近 榮治（土木48年卒）



愛媛大学土木海洋会の会員の皆様におかれましては、時下ますますご清祥、ご活躍の段、お喜び申し上げます。また、平素より土木海洋会の活動・発展にご理解及びご尽力・ご協力を賜っておりますことを、厚く御礼申し上げます。

さて、私こと、このたび前会長の河野先輩のご推薦、役員会・総会の承認をいただき、会長という大役を仰せつかりました土木S48年卒の友近でございます。

本会も、平成8年の発足後21年目を迎え、会員数も約4,800名となっております。本会は、会員相互の親睦を図ると共に、土木海洋工学における技術の発展に寄与することを目的としています。この目的を達成するには本会の活性化が不可欠であり、私も微力ながらお役にたちたいと存じておりますので、会員の皆様のあたたかいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここで、本会の財政面の指標となる前年度予備費（繰越金）の推移状況を述べてみます。本会が発足しましたH8年頃は、バブル崩壊（H3年頃）後の大型の公共投資を中心とする財政政策が講じられていた時期で、公共事業関係費（総額）はH10年には最大となる15兆円にも達しましたが、それ以降は急激に減少しました。本会におけるH10年度の前年度予備費は389万円でしたが、H16年度には169万円まで減少しました。次年度に財政の建て直しが図られ、H19年度には285万円まで回復しましたが、その後は徐々に減少し、H27年度は77万円になっています。

これらの背景には会費納入者数及び広告掲載料の減少があります。財政面における会費納入状況の改善や、同窓会活動への若年層会員の参加数不足は、例年の懸案事項ですが、一朝一夕に解決されるものではないものと認識しております。

本会の活動は支部活動が主体であることから、各支部の活性化を最優先に取り組んで行きたいと思っております。まずは、本部で収集しております情報からメーリングリストを作成し、会員の皆様に各支部での活動状況の情報をタイムリーに提供することにより、各支部活動への興味・参加を促すきっかけ作りを行いたいと思っております。現在のアドレスが名簿と違うか載っていない方は、是非、土木海洋会（dokai@eee.ehime-u.ac.jp）宛てに卒業年度と氏名をメールにてお知らせ願います。

今後とも会員の皆様方の更なるご助力、ご協力をお願い申し上げます。

学科だより

副会長 環境建設工学科 学科長

森脇 亮

環境建設工学科におきましては、平成27年4月に着任の白柳洋俊助教をメンバーに迎え入れ、平成27年10月の時点で、教授8、准教授10名、講師2名、助教4名、兼任教員3名の27名の教員と技術職員5名、契約職員14名の計46名のスタッフで学科を運営しております。また、大賀水田生教授が本年4月より理事・副学長に就任されています。

本学科の最近の動きとして、以下の四つの内容（国際化教育、学生の就職、大学院カリキュラム、社会基盤エキスパート養成講座）についてご紹介させて頂きたいと思います。

1. 国際化教育

本学科ではH23年より開始したK S A（Kaken Study Abroad）プロジェクトが開始され、今年も学生の派遣・受け入れを行いました。このプロジェクトの特徴としては、単位互換により留年をすることのないように配慮していること（半期留学）、またJ A S S O（日本学生支援機構）からの助成金が得られ経費の負担を軽減することです。留学先は平成23年から学術交流協定を結んでいる韓国蔚山大学、平成24年からは台湾国立高雄大学、また新たに平成26年から、台湾国立高雄第一科技大学、さらに大学院生を対象とした夏期短期留学として、インドネシアにあるガジャマダ大学、ハサヌディン大学、バンドン工科大学との交流を行っています。ガジャマダ大学とは本学初のダブルディグリープログラムの合意締結に向けて調整を図っているところです。これらの交換留学の目的として、本学科では国際感覚の涵養、異文化の交流を通じて学生自身の能力の向上を目指しています。

2. 学生の就職状況

本学科では、工学部全体の就職状況も併せて、今年度は特に極めて就職率の高い状態となっています。その理由として、学科の就職担当教員・職員が、きめ細かく就職のための指導をしていることに加えて、土木海洋会近畿支部の主催のもとに開催された企業説明会&OB／OG交流会や土木海洋会本部主催の現役学生とOB／OGの情報交流会も大きな役割を果たしています。本学科では就職希望の学生の100%が内定を頂いております。またこれらの交流会は平成27年12月5日に愛媛大

学職員会館にて、また近畿支部でも同様に来年平成28年2月27日に大阪キャッスルホテルにて業界研究会として開催される予定です。

3. 大学院カリキュラム

平成27年度より大学院博士前期課程（修士課程）のカリキュラムが大幅に変更され、外国人留学生にも受講できる英語の対応、PBL（Project-Based Learning、課題解決型学習）の積極的導入、クォーター制の活用を目指した講義展開を図っています。

大学院のカリキュラムの見直しとして、社会デザインコースの学生にも対応できるように新設科目を図－1のように、レジリエント社会基盤デザイン、サステナブル環境デザイン、サステナブル都市地域マネジメント、コモン科目の四つの科目群に加え、発展・総合科目として、演習、実験、実習の計30単位に修士論文を加えたカリキュラムを実施しています。

PBLは、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定や実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行うことが特徴です。この過程で、学生は他の講義・実験科目の重要性を認識し、課題解決という目標に向かって意欲的に取り組むことにより、学習動機を強くすると同時に、通常の講義・実験科目では得られない実践的な力（問題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力等）を身に付けることができます。

クォーター制は、留学やボランティア活動といった学生の自主的な学習体験の促進や、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上等を目的とするもので、本学科が実施しているKSAプロジェクトなどの留学が行いやすいようになるのが特徴です。来年度に新しい学部が創設されることに伴い、学部教育においても全学的にクォーター制が導入される見込みになっています。

環境建設工学コア科目	
<レジリエント社会基盤デザイン科目群> (6単位)	
－ 防災・減災工学	
－ 社会基盤デザイン原理	
－ 実践アセットマネジメント	
<サステナブル環境デザイン科目群> (6単位)	
－ グローバル環境物理学	
－ 新エネルギーと都市デザイン	
－ 生物多様性と人間活動	
<サステナブル都市地域マネジメント科目群> (8単位)	
－ 行動科学論	
－ システム工学論	
－ 地域マネジメント論	
－ サステナブル地域マネジメント論	
<コモン科目群> (10単位)	
－ 公共ガバナンス論	
－ 流体数値シミュレーション	
－ 個体数値シミュレーション	
－ 最新トピックス	
－ 海外留学・インターンシップ	
発展・総合科目 (必修12単位)	
◎環境建設工学ゼミナール	
◎環境建設工学特別実験	
◎技術英語プレゼンテーション	

図－1 大学院カリキュラム
(平成24年度入学者)

4. 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座

防災情報研究センターと環境建設工学科が主体となって、社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座を実施しています。この養成講座は、あらたな社会基盤の整備、既存社会基盤の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し、地域の活性化に貢献できる人材としての社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）を育成することを目的としています。講師陣は、愛媛大学工学部環境建設工学科教員ならび

に防災情報研究センター教員に加え、国・県・市・民間等の学外専門家から構成されています。平成26年度は10月～11月の10日間、平成27年度は同時期の12日間、アセットマネジメント・リスクマネジメント、橋梁の維持管理、地盤構造物の維持管理、舗装、トンネル、河川構造物、上下水道の維持管理、南海トラフ大地震と豪雨災害を想定した防災対策といった内容で実施されました。

最後になりましたが、本学科スタッフ一同、土木海洋会の会員の皆様と、様々な交流を通じて、親睦を深めていきたいと思います。

本学科の最新の活動状況を、(<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/>) にも掲載されておりますので、是非ご覧頂ければと思います。



図 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座の様子

都市景観を彩る商店主の小さな工夫



大学院理工学研究科生産環境工学専攻

助教 白柳 洋俊

1. 目につくもの

都市景観というと、一般には「都市美」と関連して語られ、とりわけ、都市美を乱す異物へ関心が向けられることが多いように思う。例えば、紅白縞模様の住宅が「目につくもの」として都市景観の議論的となったことはその典型例であると言える。

一方、目につくものが繁華なものばかりだとは限らない。生花店に並ぶ幾重にも膨らんだつぼみから感じる季節感や、ショウウィンドウ越しに感じるブティックの艶やかな雰囲気に入ってしまうことがあるように、魅力的だと感じるものもまた、我々の興味を惹きつける。都市景観、特に、多くの人が集まる中心市街地の景観を考えれば、こうした中心市街地を構成する店舗への、半ば無意図的ともいえるポジティブな認識を積み重ね、増やすことが、豊かな都市景観の形成へとつながると言える。

2. 「目に付く店舗」と「目を惹く店舗」

では、どのような特徴を持つ店舗が我々の興味を惹きつけるのだろうか。こうした現象は、心理学の分野では注意の偏りとして扱われ、ドット・プローブ課題という手法により検討される。この手法では、まず、ディスプレイの左右に参加者が気づかないほど瞬間的に、注意を引きつける標的画像とそのような特徴をもたない中性画像を対提示する。つづいて、画像の消失後、左右のどちらかの位置にドットを提示し、参加者には、ドットをなるべく速くかつ正確に検出し、その位置を報告するように指示する。すると、標的画像が提示された位置とドットが提示された位置が一致する場合、一致しない場合に比べて、より早くドットが検出されることが報告されている。これは、参加者の注意が、瞬間的に提示された標的画像へと無意図的に引きつけられた結果、つづいて同じ位置に現れるドットを素早く検出できるためだと説明される。

そこで、この手法を用い、どのような特徴を持つ店舗が我々の注意に偏りを生じさせるのか検証した。その結果、瞬間的に提示する店舗画像の提示時間を、短くした条件では、看板など文字情報が大量に掲示される店舗に注意が偏ることが観察された。短い提示時間とは、認知処理が十分には進んでいない、認知過程のごく初期

の段階に対応しており、これはすなわち、認知の初期段階ではたらく注意は、繁華な看板といった目立つものに、引きつけられることを示す。

一方、店舗画像の提示時間を幾分長くした条件では、文字情報を含む店舗画像に注意の偏りが生じることはなく、別途計測した印象評価において、親しみやすい、もしくは美しいと評価された八百屋やブティックなどの店舗画像へと注意が偏ることが観察された。つまり、認知が進行した後期段階ではたらく注意は、ポジティブな印象を持つ店舗へと惹きつけられる。このように、無意図的にはたらく我々の注意は、認知の進行によって、単に目立つ「目に付く店舗」から、ポジティブな印象をもつ「目を惹く店舗」へと偏りが変遷することが明らかとなった。

3. 商店主の小さな工夫と豊かな都市景観

また、各店舗の特徴をみれば、目に付く店舗は、多量の文字情報により構成される一方、目を惹く店舗は、八百屋や魚屋をはじめ、店先に大量に陳列する実物商品、もしくは反対にショウウィンドウの中に一体のマネキンのみが展示されるブティックのように、実物商品の陳列を極端に抑制するといった特徴がみられた。店先の商品陳列とは、まちゆく人への各店舗の情報発信であり、それは自店を演出する商店主の創意工夫にはかならない。したがって、こうした都市に彩りを与える店舗の情報発信のコントロールを図ることが、豊かな都市景観創出のためのひとつの手立てだと言えよう。

~~~~~ 支部だより ~~~~~

## 土木海洋会 関東支部だより

関東支部幹事長 武名 裕史（海洋57年卒）

今年の関東は、7月中旬から昨年同様に真夏日・猛暑日が続き、9月中旬には台風18号により北関東を中心とした豪雨災害にも見舞われました。10月下旬に木枯らし一号も吹き、暦での立冬も過ぎて、肌寒くなって来ました。そろそろ師走に向けて、慌ただしい時節ですが、会員の皆様にはお元気で過ごしてはいかがでしょうか。

関東支部では、「会員各位間の親睦を深め、新たな発見のために少しでもお役に



立ちたい」との、関東支部発足時からの使命感の下、平成26年度も以下の活動を中心として関東地区在住会員間の親睦を図ってまいりました。

1) 平成26年7月26日(土)：関東支部総会

場 所：キャンパスイノベーションセンター（田町）

参加人数：支部会員19名



平成26年度関東支部総会は、7月26日(土)に愛媛大学サテライトオフィスのご協力／ご支援のもと、田町のキャンパスイノベーションセンター(C I C)5階リエゾンコーナーにおいて、会員19名、来賓1名の参加のもと開催しました。H25年度事業内容、H25年度決算、役員の改選、H26年度事業計画、H26年度予算案について報告し、ご承認頂きました。

総会後は大学から土木施設工学・助教の河合慶有（かわい けいゆう）先生による“鉄筋コンクリートの腐食・防食と長寿化”の講演を頂きました。

講演後は、会場近くの「焚（タケル）芝浦店」にて懇親会を開催し、会員相互の交友を深めました。

2) 平成26年10月18日(土)：第10回秋のレクリエーション

場 所：小金井公園（東京都）

参加人数：17名



今回で10回目を迎える秋のレクリエーションは、昨年に引き続き、中央線武蔵小金井駅（東小金井駅）近くの東京都小金井公園にてバーベキュー大会を行いました。

当日は、素晴らしい好天の下、昨年より2名増えた17名で公園内の「手ぶらセット」の美味しいお肉と野菜に、皆で手分けして運んだタッパリのビールと焼酎、遠路山梨から岩崎副支部長持参・差し入れの甲州ワインで、爽やかな秋の一日を十分にエンジョイしました。また、1時間前に場所取りや肉の解凍で先行準備して頂いた奥山さん（土木4）、糸川さん（環建21）、伊賀さん（環建22）のおかげでスムーズに開始できました。



- 3) 平成26年11月8日(土): 第28回 クラブOH! 海土懇親ゴルフ大会  
場 所: クリアビューゴルフクラブ (千葉県)  
参加人数: 8名



第28回クラブOH! 海土懇親ゴルフ大会は、都内から程近い利根川のリバーサイドコースであるクリアビューゴルフクラブにて、会員8名の参加で開催されました。

会計幹事に加藤正雄さん(海洋56)が、ロングヒッターの本領を発揮して優勝されました。

- 4) 平成27年1月24日(土): 関東支部 平成27年 新年会  
場 所: キャンパスイノベーションセンター (田町)  
参加人数: 支部会員24名



平成27年新年会は、愛媛大学サテライトオフィスのご協力のもと、田町のキャンパスイノベーションセンター5階リエゾンコーナーにて開催されました。

土岐支部長の年頭挨拶の後、来賓の河野土木海洋会会長のご挨拶を賜りました。その後、特別講演として元武田薬品工業株式会社の三分一秀人氏より「私の海外体験談」と題して、地球約121周・50ヶ国を訪問された海外面白経験談をして頂きました。新年会後は、近くの「京町長屋 はちすか小六 田町本店」にて会員相互の懇親を深めました。



- 5) 平成27年3月21日(土): 第29回 クラブOH! 海土懇親ゴルフ大会  
場 所: 春日居ゴルフ倶楽部 (山梨県)  
参加人数: 8名



第29回クラブOH!  
海土 懇親ゴルフ大会は、昨年に引続いて山梨の春日居ゴルフ倶楽部にて会員8名の参加で開催し、単身赴任帰りで久々の復

帰戦となった藤本好由さん（海洋56）が優勝されました。今回は少し趣向を変えて、ゴルフを終えてから石和温泉健康ランドに泊り、美味しいお料理と温泉を満喫しました。

上記の他、支部長、副支部長、監事、幹事の皆さんは多忙な中で日程を調整し、平成26年度は年間3回の幹事会を開催し、各イベントの詳細計画等を協議し関東支部活動の力の源泉となりました。

関東支部では、毎年、決算／予算案審議に加えて愛媛からご来京頂いた先生に講演頂く支部総会を始めとして、多彩な方面で活躍されているOB／OGの方にご講演をお願いしている新年会、春・秋2回開催の懇親ゴルフ大会、さらには、幅広い年齢層の方々と一緒に楽しめるように企画している秋のレクリエーションを活動の4つの柱としています。

関係者一同、今後も少しでも会を盛り上げていきたいと頑張っておりますので、お近くの方はぜひお気軽に参加して頂ければと考えております。また、就職・転勤などで関東地区に移られた方は、是非ご一報下さい。

## 近畿支部だより

### — 第2回業界研究会の開催 —

近畿支部監事 藤原 隆一（海洋56年卒）

近畿支部では平成26年より、新年会と併せ、下記の要領で企業説明と交流会を実施しています。以下に、実施状況を簡単に報告させていただきます。

〈趣 旨〉

愛媛大学工学部環境建設工学科・同大学院卒業予定学生の土木業界就職に関する意識の高揚と彼らの就職活動に対する支援を目的とする。

〈主 催〉

愛媛大学土木海洋会 近畿支部

〈日 時〉

平成27年2月28日(土) 14:00～20:00

〈場 所〉

大阪キャッスルホテル

〈次 第〉

- 14：00～ 主催者あいさつ  
14：05～14：35 各社による業界紹介プレゼンテーション（各社3分）  
14：40～17：40 各社のブースにて業界説明、学生グループ訪問  
各社1回当たり25分で6ローテーション  
17：40～ 閉会挨拶  
18：00～20：00 交流会 兼 近畿支部新年会

〈参加企業（五十音順）〉

(株)アスコ、(株)オリエンタルコンサルタンツ、J F Eエンジニアリング(株)、  
(株)デンロコーポレーション、東海旅客鉄道株式会社（J R 東海）、東洋建設(株)、  
日本港湾コンサルタント、西日本高速道路(株)、西松建設(株)、前田建設工業(株)、  
(株)森組

〈交流会〉

稲田名誉教授、森脇教授、氏家教授、吉井教授、門田准教授、中畑准教授、  
木下講師、全助教、見世職員

卒業生48名、現役学生46名、企業人事担当9名 合計112名

〈今後の展開など〉

今回で2回目となった業界研究会であるが、初回（43名）と同程度の学生が参加し、併せて先生方の参加も昨年の5名から9名に増え、盛況でした。午前中に松山を出発し、帰りは翌朝早くになるという強行軍ですが、さすがに体力のある若人の集団で、疲れを見せません。就職活動も始まったばかりで、企業側にもまだそれほど緊迫感のない時期の開催となることもあって、説明会、交流会ともに和やかに進みました。今回は、座席を定めるテーブル方式を採用しましたが、途中からは座席を離れる方も増え、様々な場所で話が盛り上がったように感じました。最後は、全員で学歌を斉唱し、家路に向かう人、三々五々二次会に向かう人に分かれ、散会となりました。



業界研究会の目的と新年会のそれが違うこともあって、交流会を今後どのように展開していくかは様々な考え方があります。ただし、かなり年齢の幅のあるメンバーが一堂に会する点は斬新です。同窓会の在り方が再考される時代の中において、多様性を持つ同窓会の芽になるのではないかと期待が膨らむところでもあります。まだ、始まって二年目であり、しばらくは継続する中から時代の要請に見合う内容を探し出せばよいのではないのでしょうか。個人的にはこのようなスタンス

で気楽に構えていきたいと考えています。皆様からのご意見をいただければ幸いに存じます。

なお、今年度の内定者は5社・5名（昨年度5社・8名）となりました。なお、5名の内定者の内訳は大学院2名、学部3名でした。

来年度につきましても、平成28年も2月27日(土)に開催を予定しております。前回以上の成果を上げられるよう準備を進めてまいりたいと思いますので、近畿支部役員の皆様、本部の関係者の皆様には、また、ご助力の程、お願い申し上げます。

最後になりますが、開催に当たりましてご尽力いただいた森脇教授、氏家教授、吉井教授、門田准教授、中畑准教授、木下助教、全助教ならびに見世さん、また学生の皆さんに熱心に説明していただいた参加企業の皆さんには、この場をお借りして心からお礼申し上げます。

〈近畿地区在住の卒業生にみなさんへ〉

近畿支部では、冬は現役の先生方、学生との交流会を含めた新年会、夏は総会、春秋はゴルフコンペなど卒業生のみなさん同士の交流の場を用意しています。参加をお考えの方は、ぜひ以下へご連絡ください。たくさんの方のみなさんのご参加をお待ちしております。

#### ※連絡先

近畿支部事務局 清水義博（土木52年卒） [somu@denro.co.jp](mailto:somu@denro.co.jp) 090-5240-3016



## 中国支部だより

中国支部幹事長 國富 將嗣（土海H 8 年卒）

当中国支部は、中国五県に在住の630名余の土木海洋会会員の方々に対し、会員相互の親睦を図り、土木、海洋、それに関連する技術の発展に寄与することを目的として活動しております。

昨年支部だよりで支部長の河野氏が述べておられますように、残念ながら活発な活動はできておりませんが、昨年度の活動と本年度の活動状況についてご報告申し上げます。

### 【平成26年度活動報告】

平成26年度は、支部定時総会を含め、計3回の会合を開催しました。会合は以下のとおりです。

| 会 合   | 開催日     | 場 所   | 参加者数          | 主 要 議 題                |
|-------|---------|-------|---------------|------------------------|
| 定時総会  | 6 / 28  | えびすの宴 | 9 名           | 決算報告、予算、役員改選           |
| 忘 年 会 | 11 / 30 | えびすの宴 | 8 名           | 会名称変更意見集約方法検討          |
| 臨時総会  | 1 / 30  | えびすの宴 | 15名<br>(132名) | 会名称変更意見集約、<br>支部会則について |

予算的には限られるものの、昨今の活動が低迷していたことから繰越金がやや残っており、これを用いて活動の活発化を目指しています。

平成26年度については、本部総会で指示された土木海洋会名称変更の意見集約事案や支部会則の改正など重要事案があったことから、複数回の総会を開催しました。

土木海洋会の名称変更に関する支部意見は、臨時総会により意見集約し、現状維持：65名、変更希望：7名、議決権の委任：60名（議長一任57名、他委任3名）となりました。この時、支部会員約630名にメールや往復はがきで案内を出しました。結果、回収率は2割程度でした。

また、支部会則が不明瞭な状態であったため、改めて本部会則を参考に、支部活動がより現実的に行えるよう改正案を立案しました。なお、支部会則については、平成27年度定時総会において承認・可決されております。

### 【平成27年度活動状況】

平成27年度は、6月6日に開催した定時総会において、前述のとおり支部会則を

改正しました。

これまでは、広島市内での懇親会的な会合が多いため他県の方のご参加が難しく、また、特に若い世代の方のご参加がしにくい環境であったことから、広島だけでなく他県での会合の開催や、工場や現場の見学会などの開催を検討し、会員の参加しやすい環境を作ることを検討しています。

なお、支部会員同士が親睦会等を開催する場合は、所定の条件により補助金を支給する仕組みを支部会則に取り入れており、会員相互の交流についても推進する環境を構築しております。

今後の具体的な予定としては、忘年会または新年会の開催を検討しております。中国支部会員の方で支部活動にご興味のある方は、幹事長までご連絡頂けると幸いです。(E-mail : [kunitomi-sho@kunitomi-div.com](mailto:kunitomi-sho@kunitomi-div.com))

どうぞ中国支部の活動にご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 【平成26年度決算資料】

### 平成26年度 決算書

H27. 3. 31

#### 平成26年度期末 貸借対照表（決算）

| 【資産の部】         | 【負債の部】             |
|----------------|--------------------|
| 現 金 8,447      | 仮 受 金 51,707       |
| 預 金 328,595    | 預 り 金 1,569        |
|                | (負債の部 小計) 53,276   |
|                | 【剰余金の部】            |
|                | 前期繰越金 285,135      |
|                | 当 期 損 失 -1,369     |
|                | (剰余金の部 小計) 283,766 |
| 【資産合計】 337,042 | 【負債・剰余金合計】 337,042 |

#### 平成26年度期末 収支計算書（決算）

| 【収入の部】         | 【支出の部】         |
|----------------|----------------|
| 本部補助金 100,000  | 懇親会費用 141,500  |
| 参 加 費 64,000   | 支払手数料 216      |
| 受 取 利 息 54     | 通 信 費 51,707   |
| 雑 収 入 28,000   |                |
| (収入合計) 192,054 | (支出合計) 193,423 |
|                | 【当期損失】 -1,369  |

## 愛媛大学土木海洋会 愛媛支部 活動報告

|         |    |    |           |
|---------|----|----|-----------|
| 支 部 長   | 黒川 | 重男 | (土木S55年卒) |
| 副 支 部 長 | 平松 | 浩彰 | (土木S58年卒) |
| 幹 事 長   | 藤田 | 康司 | (土木H4年卒)  |
| 〃 (補佐)  | 中村 | 大樹 | (土海H10年卒) |
| 〃 (補佐)  | 神野 | 斎  | (環建H14年卒) |
| 〃 (補佐)  | 栗原 | 弘和 | (土木H2年卒)  |

愛媛大学土木海洋会会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと存じ上げます。また、日頃より土木海洋会愛媛支部の活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

平成26年度は、高橋支部長、黒川副支部長、栗原幹事長のもと支部活動を行って参りました。平成27年度につきましては、後述します新たな役員にて支部活動を行って参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

土木海洋会だよりの紙面をお借りして、平成26年度の活動報告を致します。

### 【平成26年度事業報告】

平成26年度は、役員会をはじめとして、ゴルフコンペを2回と忘年会を開催し、多数の出席を頂きました。詳細は下記に示します。また、ゴルフコンペと忘年会につきましては後ほど詳しくご説明します。

1. 役員会開催（平成26年8月2日）出席者12名  
議題：支部総会用資料の審議
2. 支部総会（平成26年8月23日）出席者9名  
会場：愛媛大学 校友会館
3. 本部総会（平成26年8月23日）  
会場：愛媛大学 校友会館
4. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成26年5月4日）参加者11名  
会場：サンセットヒルズカントリークラブ
5. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成26年11月29日）参加者12名  
会場：サンセットヒルズカントリークラブ
6. 忘年会（平成26年11月29日）出席者37名  
会場：伊予鉄会館 2階 中華料理「北京」



### 【平成26年度会計報告】

平成27年3月31日時点での会計報告を下記に示します。

| 収 入                   | 支 出                      |
|-----------------------|--------------------------|
| 前年度繰越金<br>431,937円    | 役員会開催費<br>16,800円        |
| 平成26年度補助金<br>100,000円 | 文房具・通信費<br>8,219円        |
| 忘年会補助金残額返還<br>2,000円  | 忘年会補助費<br>76,000円        |
| 利 息<br>75円            | ゴルフコンペ補助費（2回）<br>46,000円 |
|                       | 次年度繰越金<br>386,993円       |
| 収入合計<br>534,012円      | 支出合計<br>534,012円         |

### 【平成27年度予算報告】

平成27年度の予算報告を下記に示します。

| 収 入                  | 支 出                                      |
|----------------------|------------------------------------------|
| 前年度繰越金<br>386,993円   | 役員会開催費<br>15,000円                        |
| 本部からの補助金<br>100,000円 | 印刷通信費（葉書、写真プリント等）<br>10,000円             |
| 利 息<br>7円            | 支部主催ゴルフコンペ補助<br>2,000円@10名@2回<br>40,000円 |
|                      | 忘年会補助等<br>2,000円@35名<br>70,000円          |
|                      | 同窓会補助<br>2,000円@5名<br>10,000円            |
|                      | 予備費<br>342,000円                          |
| 収入合計<br>487,000円     | 支出合計<br>487,000円                         |

### 【平成27年度事業計画】

平成27年度の事業計画につきましては、この土木海洋会だよりをご覧になるころには、支部総会、本部総会、支部主催ゴルフコンペと忘年会は実施済みとなっていることと思います。

今後も新役員で行事を考えておりますので、多数の方の参加を心よりお待ちしております。

愛媛支部 第1回ゴルフコンペ (H27. 5. 23)  
 支部総会 (H27. 8. 22) 愛媛大学 校友会館  
 本部総会 (H27. 8. 22) 愛媛大学 校友会館  
 愛媛支部 第2回ゴルフコンペ (H27.11.28)  
 忘年会 (H27.11.28) 伊予鉄会館  
 その他 同窓会補助 (釣り大会、スポーツ大会) など

## 【平成27年度役員紹介】

平成27年8月22日の支部総会より次年度の総会までの間、次に示します役員により、愛媛支部の運営を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

|       |       |          |                    |
|-------|-------|----------|--------------------|
| 支部長   | 黒川 重男 | (土木S55年) | 愛媛県                |
| 副支部長  | 平松 浩彰 | (土木S58年) | 松山市                |
| 幹事長   | 藤田 康司 | (土木H4年)  | 愛媛県                |
| 〃(補佐) | 中村 大樹 | (土海H10年) | 愛媛県                |
| 〃(補佐) | 神野 斎  | (環建H14年) | 松山市                |
| 〃(補佐) | 栗原 弘和 | (土木H2年)  | (株)四電技術コンサルタント     |
| 幹事    | 勝谷 雄三 | (土木S49年) | 松山市                |
|       | 山田 康晴 | (土木S53年) | (株)地図総合コンサルタント     |
|       | 中尾 均  | (土木S54年) | 伊予鉄道(株)            |
|       | 玉井 良二 | (土木S54年) | 松山市                |
|       | 高橋 正雄 | (海洋S55年) | 三井住友建設(株)          |
|       | 村上 浩司 | (海洋S55年) | 芙蓉コンサルタント(株)       |
|       | 加藤 幸彦 | (土木S55年) | (株)四電技術コンサルタント     |
|       | 永井 康生 | (土木S56年) | 愛媛県                |
|       | 白石 研司 | (土木S58年) | 日本エレクトロニックシステムズ(株) |
|       | 大倉 修  | (土木S62年) | 愛媛県                |
|       | 渡邊 政富 | (土木H2年)  | 渡邊建設(株)            |
|       | 山本 修嗣 | (海洋H2年)  | 五洋建設(株)            |
|       | 谷口 貞広 | (土海H7年)  | 松山市                |
|       | 明日 孝憲 | (土海H9年)  | 愛媛県                |
|       | 白石 誠  | (土海H11年) | 松山市                |
|       | 木村 将伸 | (環建H12年) | 松山市                |
|       | 藤森 祥文 | (環建H12年) | 愛媛大学               |
| 監事    | 大賀水田生 | (土木S49年) | 愛媛大学               |

なお、支部の運営やご意見などがございましたら、遠慮なく幹事長又は幹事長(補佐)にご一報いただきたいと考えております。いただきました意見等を参考に、支部の運営をよりよいものにしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

## 【平成26年度のおもな行事の紹介】

### ★第1回愛媛支部主催ゴルフコンペ★



平成26年5月24日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢11名で競われた結果は、優勝は氏家勲さん、準優勝は砂田元さんでした。

### ★第2回愛媛支部主催ゴルフコンペ★



平成26年11月29日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢12名で競われた結果は、優勝は内田裕さん、準優勝は山内武志さんでした。

### ★平成26年度 忘年会★

平成26年11月29日(土)に伊予鉄会館「中国料理 北京」において、総勢37名の参加により行われました。

産官学の方々が気兼ねなく集える場所ですので、有意義な時間が過ごせることは間違いありません。今後の忘年会には是非とも参加のほどよろしく申し上げます。(あまり固苦しく考えなくてもいいと思います。)

今後は、愛媛大学土木海洋会のホームページに活動報告を積極的に掲載し、同窓会の皆様に少しでも関心を持って頂けるようがんばってまいります。!!!

愛媛大学土木海洋会

検索

以上、愛媛支部の活動報告を終わります。



## 愛媛大学 土木工学科 水工学研究室 近畿地区同窓会

## 「豊國先生を囲む会」報告

清水 義博（土木S52年卒）

山本 英樹（土木S53年卒）

秋も深まり、紅葉の季節の到来を控えた10月11日に恩師である豊國先生をお招きし、ご自宅のある神戸の地にて「豊國先生を囲む会」を開催しました。

豊國先生は、昭和43年、38歳で愛媛大学に教授として着任され、昭和62年に神戸大学に赴任されるまでの間、20年間の長きにわたり、水工学の研究に携われ、大学に多大な功績を残されるとともに、水工学研究室から多数の卒業生を輩出されてきたところです。

その後、神戸大学を退官された後も、引き続き近畿大学非常勤講師として精力的に教鞭をとられておられました。

先生が神戸大学に変わられたことを契機に、近畿在住の水工学研究室卒業生による呼びかけにより、本会が平成元年に発足し、同窓会を兼ねて、これまで幾度か開催されてきました。

また、先生は、機会あるごとに愛媛大学土木海洋会近畿支部総会にもご臨席いただき、卒業生一同を温かく見守っていただいていたところですが、先生のご都合の関係と支部の会合が大阪ということもあいまって、ここ数年、お会いできなかったことから、今回、水工学研究室出身者をはじめ、日頃からお世話になっている近畿支部の卒業生が集い、久々に本会を復活させたところです。

当日は、3連休の中日にもかかわらず、土木工学科卒業生14名が集うとともに、松山から渡邊先生も駆けつけていただき、盛大に会を催すことができました。

豊國先生は、今年で御年86歳になられますが、日頃から自宅近くのジム通いにより体の自己管理をしっかりされておられることもあり、いつまでも若々しく、お元気で凛とされたお姿は、在学中のイメージと全く変わりませんでした。

また、渡邊先生も昨年3月に大学を定年退官され66歳になりましたが、現役当時と変わりなくお元気で、現在、愛媛県建設技術支援センター理事長としてご活躍されておられます。

参加者は、還暦を過ぎた年代が大半を占めていましたが、今なお現役で活躍している方、退職後NPO法人等を通じ社会貢献されている方など様々でしたが、懇談では、全員が松山での学生時代に思いを巡らせ、当時の先生や授業の様子、研究室対抗ソフトボール大会での出来事、各研究室での思い出や就職試験の苦労話等々、

尽さない懐かしい話題に花が咲き、時の経つのを忘れるほど大いに盛り上がり、あっという間が過ぎていきました。

両先生も限られた時間でありましたが、大いに楽しんでいただけた事と思っています。

来年以降も引き続き、先生をお招きし、定例的に10月に本会を開催することとしています。あらためて、私たちの恩師であり、憧れであり、心の支えである豊國先生と渡邊先生のご健康とご活躍を心から願っています。

開催日時：平成27年10月11日(日) 13：00～15：30

開催場所：神戸三宮 東急R E I ホテル

参 加 者：豊國永治先生、渡邊政広先生、上阪欣司（土木45卒）、  
吉牟田豊（土木45卒）、松浦良和（土木46卒）、矢野正行（土木46卒）、  
鈴木忠彰（土木47卒）、山野邊憲正（土木47卒）、鳥袋英男（土木47卒）、  
荒柴敏夫（土木48卒）、清水義博（土木53卒）、山本英樹（土木53卒）、  
林健治（土木53卒）、牧野吉博（土木56卒）、宮地克好（土木56卒）、  
大村潔（土木60卒） 計16名

〈水工学研究室出身の卒業生にみなさんへ〉

水工学研究室 近畿地区同窓会「豊國先生を囲む会」は、定例的に10月に神戸三宮で開催することになっています。今回参加出来なかったみなさんは、ぜひ来年は、ご参加ください。お待ちしております。

連絡先 「豊國先生を囲む会」 世話役 清水義博（土木52年卒）

[somu@denro.co.jp](mailto:somu@denro.co.jp) (090-5240-3016)



# 鈴木先生を囲む会 2015

門田 章宏（土木H4年卒）

日 時：平成27年5月30日

場 所：ピュアフル松山

参加者：鈴木先生、渡邊先生、西村先生、前川旧職員、近藤旧職員、見世職員、  
他、卒業生（昭和63年～平成6年土木工学科、平成7年～11年土木海洋工  
学科、平成12年～22年環境建設工学科の水工学研究室卒業生）計59名

鈴木幸一先生は、平成22年3月に愛媛大学教授を退職され、その後5年間、新居  
浜高等専門学校の校長として赴任され、この44年間に渡り教育研究に邁進されまし  
た。現在のご実家の岡山と松山を行き来し、ほぼ一か月毎に滞在されているよう  
です。また現在も国土交通省や愛媛県などの委員会の役員としてご活躍されています。

この度、愛媛大学を退職された5年前に行った鈴木先生を囲む会を、第2回目の  
囲む会を今年度も実施する運びとなりました。今回の鈴木先生を囲む会では、愛媛  
県に住んでいる卒業生だけでなく、遠くは東京や京都、大阪等から足を運んでいた  
だき多くの方の参加を頂きました。

鈴木先生を囲む会の進行では、藤森先生による開会の辞の後、渡邊先生に開会  
の挨拶をして頂きました。その後、特別ゼミとして鈴木先生に講演を頂きました。四  
国における渇水・豪雨・洪水等の治水問題やこの問題に対する河川整備について  
のお話を頂き、私が学生時代に鈴木先生から学んだ河川工学の授業や研究室でのゼミ  
を懐かしく思い出しました。参加者全員の記念写真撮影の後に、会食が行われ、西  
村先生の乾杯の挨拶の後、同窓生同士が賑やかに会話を交わしていました。また、  
皆さん学生の頃に帰ったようで冗談を言いながらとても楽しい時間を過ごしていま  
した。囲む会の最後に、H22博士課程卒の児島様から鈴木先生に記念品の贈呈が行  
われ、私・門田が閉会の挨拶をしました。鈴木先生への感謝の意を表すとともに、  
愛媛大学土木海洋会から同窓会の協力を頂いたことを報告させていただきました。

3年後の平成30年にも水工の皆さんで集まり鈴木先生を囲む会を開催する予定  
です。鈴木先生には、今後もお元気で、また社会への益々の貢献を期待しております。





## 現役学生とOB・OGの情報交換会

環境建設工学科

幹事 木下 尚樹（土木S63年卒）

環境建設工学科（コース）の学部生・大学院生と愛媛県およびその周辺の比較的若い世代のOB・OGが、実務内容、就職活動や進路動向等に関して情報交換し、現役生と卒業生の交流を図ることを目的として、平成26年12月6日(土)に愛媛大学職員会館大会議室において「現役学生とOB・OGの情報交換会」を開催いたしました。



歓談の様子



卒業生による講演

本会には学科教職員6名、卒業生33名、現役学生は学部3回生と修士1年生を主体に39名の参加がありました。卒業生の構成は20代22名、30代8名、40代3名で、平均年齢30歳と若い世代の卒業生が集まってくれました。まず、第1部として建設業界の現状と動向をテーマに講演会を行ない、小笠原紗也佳さん（環建21年卒、四国地方整備局勤務）、崎山久美子さん（環建24年卒、松山市役所勤務）、中島千尋さん（環建24年卒、㈱シアテック勤務）、西山曜平さん（環建20年卒、西日本高速道路㈱勤務）による講演がありました。第2部は情報交換（歓談）し、卒業生全員が一言挨拶をしました。現



役学生は就職活動をひかえた時期でもあったためか、年代の近い先輩方の話に大変興味を持った様子でした。開催後の現役学生を対象としたアンケートでも、全員がこのような会が必要であると回答しています。

同窓会を持続可能な組織とするには幅広い年齢層の同窓生が活動に参加することが必要です。学科内に所在する同窓会本部は現役学生や卒業間もない若い卒業生と近い立場にあることから今回の会を企画しましたが、このような会を通じて若い世代に土木海洋会を知ってもらい、行事に参加し同窓会を身近に感じてもらうことが、今後の同窓会にとって大事なことだと思っております。

最後になりましたが会の開催に際し環境建設工学科（後援会）と愛媛県地盤工学会（地盤工学会四国支部）から援助をいただきました。また、学科の就職関係の事務をされている見世さんに準備や手配等でお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。



参加者による記念撮影

## 国土交通省四国地方整備局 愛媛大学卒業生懇親会

大学院環境建設工学専攻修了

中村 忠司（土木H16年卒）

今回、初投稿させていただきます。

我々は、国土交通省四国地方整備局の愛媛大学卒業生です。6年ほど前から愛媛大学の卒業生としてのつながりを構築することを目的に、職場内で、工学部環境建設工学科（土木工学科、土木海洋工学）をはじめ、他の学部学科の卒業生に幅広く声をかけて、任意で簡単な名簿を作成しております。その名簿の登録者数も今では50名を超えております。

我々は、四国内各地に点在する部署に勤務しており、数年毎に転勤しているなかで、それぞれの職場において、名簿により同窓生として認識ができたり、仕事上とは別のつながりを築いたりする一助となっております。

そのようななか、毎年一回懇親会を松山の地で開催しており、今回はその状況を報告いたします。

職場内では、さまざまな部署、立場の違いもあり、年齢層も幅広ではありますが、同じ愛媛大学の同窓生として、気兼ねなく交流を深めることができ、楽しい時間を過ごすことができました。また、今年も現役の先生方にもご出席いただき、盛大に開催することができました。先生方と話をしていると学生時代の記憶が蘇り、懐かしい時間を過ごすことができました。

今後とも定期的に続けていきたいと思います。



## 昭和52年海洋工学科入学同窓会

藤原 隆一（海洋S56年卒）

藤本 好由（海洋S56年卒）

日 時 平成27年5月30日(土)（初回：平成23年6月25日(土)）

場 所 松山市（伊予鉄会館2F中華料理「北京」）

昭和52年入学というちょっと変わった集まりですが、我々は海洋工学科4期生（入学時44名）となります。入学時にはようやく4学年揃ったということで、先生

方および先輩方から大変可愛がっていただきました。当時は現在想像しにくいほど留年者が多く、全国でワースト1の専門移行率となり、新聞に掲載されたのも昨日のこのように感じます（半期移行制度を活用し三回生時は約半数が移行）。残念ながら、西井正樹君（J A L123便事故）、亀岡 均君（すい臓がん）、小林幸則君（脳腫瘍）宮本智行君（くも膜下出血）はすでに鬼籍に入られました。

海洋工学科では運動会やソフトボール大会を盛大に行っていましたが、運動会のチーム分けが入学年度となっておりました。当時は、柿沼先生がまだ40代でしたし、他の先生方は学生とあまり変わらず、何をしてもなかなか学生は敵いませんでした。勝負どころでは柿沼先生からきついヤジが飛び、気の弱い学生はそれだけでなえていました。室先生は真面目に掘削のために土木工事車両に取り付けるリッパーチップのご研究に没頭されていた思い出があります。柏谷先生は我々の補導教官をしていただき、酒を飲むたびにご迷惑をおかけしたのではないかと思います。山口先生が黒板に数式を書き始めるといつ書き終わったのか覚えている学生は数少なかったと思います。柳先生は常に白衣と雪駄とコンビなのですが、ソフトボールのときもその恰好で走り回られていたような記憶があるのですが……。伊福先生は自慢の快足を生かし、学生と一緒に走り回っておられました。武岡先生はソフトボールの現役で、運動場がなくなったため場所確保に苦労されているようです。各先生からは我々世代が元気でやんちゃであった旨のお話を頂き、印象深く覚えていただいたことは非常に光栄でした。卒業生からは、「卒業後6度？の転職後、家業を継ぎ社長見習い中」、「ハローワークにお世話になった経験からお世話に廻っている」、「厳しさを増す公務員の状況」、「苦節を重ね歯医者へ転職、すっかり若返った姿（なぜかボルシェはもっていない、ボルシェと愛人は歯医者者の必須と思っていました）」で登場、「松山でプロダクションを経営、自らのラジオのDJ番組等を紹介」、「人生を子供にすべてを託した話」など、多様な生活を送っている報告がありました。

というような、懐かしい話をしていると、あっという間に一次会は終わり、参加者のほとんどは2次会会場へとなだれ込み、昔と同じく酔いつぶれるまで松山の夜を楽しみました。

P S この会の約10日後、藤本兄と小生は、東京ドーム球場で愛媛大学対京都学園大の応援に駆けつけました。昔でいう春の神宮大会で、愛大は四国代表での出場です。今回は、参加できませんでしたが、柳沢前学長の支援もいただいて応援団が5～6年前に復活しました。1回生には女性団員もいます。野球部も4回生の女性部員がおり、公式戦の出場は認められませんでした。今年の松山大との定期戦ではレフトで出場しました。全国レベルのチアリーダー部もあり、女性の元気さが目立ちます。ちなみに、試合前のエール交換に野球部応援部隊が困っていたため、小生が飛び入りし、全国大会での応援と言う夢を叶えさせていただきました。なお、試合後のエール交換は野球部の応援部隊がしっかりと行いました。



小林真三 安井祐輝 大久保彰 西岡洋一 藤原隆一 木田憲二 加藤正雄 榎本太司  
大畠 前 松本好博 藤本好由 重信 純 松本貞史 富田邦彦  
山口正隆先生 柿沼忠男先生 柏谷増男先生 伊福 誠先生

〈第1回 平成23年6月25日〉



富田邦彦 宮崎嘉彦 藤本好由 大久保彰彦 安井祐輝 岡本恭明  
榎本太司 藤原隆一 萩野芳章  
加藤正雄 重信純 濱口敬知 西岡洋一 柳哲雄先生  
武岡英隆先生 室達明先生 柿沼忠男先生 柏谷増男先生

〈第2回 平成27年5月30日〉

## S 39・42年卒稲毛会 & 東京三大銅像

大門 和敬（土木S42年卒）



楠木正成

大村益次郎

西郷隆盛

千葉県在住田辺・中村・梁田の3氏、さいたま神田氏及び松山大門の5名で、助成金制度を利用させていただき、2014年12月21日稲毛にて昼食会を開催。田辺さんとは、2002年札幌での同期会にて世話になって以来の再開、皆さんお集まりいただき、楽しいひとときをありがとうございました。卒業生の皆さん、70歳までは会費を納入して、それ以後の会費免除の方は、争いの元となる“子孫に美田を残さず”、土木海洋会への寄附に回していただければ、この会の運営も長寿安泰に。

翌日帰りの途中、67年振りに戦前の姿に保存復元された東京駅赤煉瓦駅舎へ。丁度スイカカードの販売中止の騒ぎに遭遇。旧東京中央郵便局舎の一部が保存された隣のJ Pタワーへ。東京駅の空中権（＝容積率）をJ R東海より約500億円で買い取り、高さ約200mの超高層ビルとなる。日本郵便が初めて手がけた商業施設「K I T T E」は、当初の計画では、年間来客者を1,300万人と見込んでいたのが約2,300万人と好調。明日の天皇誕生日祝賀の準備をしていた皇居前広場を南へ、楠木正成銅像。別子開坑二百年を記念して、明治33年に住友が献納したもので伊豫別子銅山の純紫銅を用い、住友が東京美術学校（現東京藝術大学）に意匠製作の一切を委嘱。原型木彫の製作主任は、当代木彫の第一人者光雲高村幸吉。「馬の後藤」と言われた後藤は、奥州、木曾、薩摩などの名馬の長所を採って創作、「幻の名馬」となっている。やってきたバスガイド「馬に跨るこの姿は皇居の方に向かっていているので、正面は後ろになっている。前を正面にすると銅像を見上げる人のお尻を皇居の方に向けることになる」と。又「上野公園の西郷隆盛、靖国神社の大村益次郎と併せて東京の三大銅像・名所になっている」とも。

今年6月24日、反安保法制・国会包囲行動3万人集会に「えひめ地域再生戦略研究会（会長 愛媛大学元学長 小松正幸）」より派遣され2名で上京。翌日、昭和19



年中国で戦死した叔父の御参りにはじめて靖国神社へ。A級戦犯を除いて「二礼二拍手 一礼」。靖国神社の起こりは、戊辰戦争の官軍側の戦死者を慰霊する東京招魂社で、大村益次郎が木戸孝允と謀って建立。

大村益次郎：旧姓 村田蔵六。幕末、明治維新の軍政家。長州医家生まれ。29歳の時、宇和島藩八代藩主伊達宗城の招きに応じ、高野長英の後任として、兵制、洋学を担当、はじめて西洋式軍艦を設計建造した。銅像は、大熊氏広作明治26年完成。東京における最初の銅像で、上野の方角を正面に建てられている。

西郷隆盛：幕末、明治初期の政治家、軍人。明治10年西南の役で自刃。朝敵の汚名を受けたが、その死の直後、福沢諭吉は、専制権力に対する西郷の抵抗精神をたたえる「明治十年丁丑公論」を書き、内村鑑三も日清戦争（明治27～28年）の最中の著書「代表的日本人」で武士の最大なものと賞揚した。名利を求めぬ悲劇の英雄として国民の中に信奉者を集めた。明治22年2月憲法発布の大赦で正三位を追贈される。31年、高村光雲作の銅像が建てられ、上野の象徴として親しまれている。この銅像の北250mのところに正岡子規記念球場がある。

子規の幼名「升」から「野球」というペンネームを用い、「打者、走者、直球、死球、飛打」などの訳語は今も使われている。没後100年目の2002年「新世紀特別表彰」として野球殿堂入りした。ベースボールを「野球」と名づけたのは、子規とばかり思っていたが、3歳若い同じ第一高等中学校（現・東京大学）野球部で名二塁手として活躍した鹿児島出身の中馬庚という学生であったことを初めて知る。生誕100年目の1970年特別表彰として野球殿堂入りしている。因に、西郷隆盛は西南の役で賊軍となった故、靖国神社には入っていない。

原発、T P P、消費税増税等の日本の将来に大きく影響する諸問題を、政治家、官僚、学者、企業人、ジャーナリストの多くが「今だけ、金だけ、自分だけ」の三だけに収束している昨今、「西郷伝説」を生んだ隆盛のような国民に愛される、強いリーダーシップをもった政治家の出現を、今まさに望みたい。

東京の三大銅像と「えひめ」との縁・ゆかり？について記しました。一度お立ち寄り下さい。

別子銅山記念館長 田尾邦雄様、子規記念博物館学芸員 岡本かおりさん、脇坂望さんお世話になりました。

参考文献 日本郵政（東洋経済新報社）、軍賊の昭和史（同）  
国史大辞典（吉川弘文館）、明治時代史大辞典（同）  
日本全史・ジャパン・クロニック（講談社）  
住友の風土（住友商事）、世界大百科事典（平凡社）、日本歴史大辞典（小学館）  
図説明治人物事典政治家軍人言論人（日外アソシエーツ）  
朝日新聞2015年1月27日・2月3日、朝日新聞2015年1月29日

## 平成27年度 愛媛大学土木海洋会 総 会 議 事 録

開催日時：平成27年 8 月22日(土) 午後 3 時～

開催場所：愛媛大学校友会館

出席者数：30名

議 題

議 長：河野 徹 会長

### 1) 平成26年度事業報告について

事務局より、総会資料－ 1 に基づき、平成26年度中に実施された諸事業について、例年の事業に加え、会の活性化の検討として就職企業説明会&OB・OG交流会（近畿支部主催、学科共催）、現役学生とOB・OGとの情報交換会（学科共催）等が開催されたことが説明され、これらが全会一致で承認された。

### 2) 平成26年度決算報告について

事務局より、総会資料－ 2 に基づき、平成26年度の決算報告がなされるとともに、この会計について松本監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

### 3) 平成27年度役員について

事務局より、総会資料－ 3 に基づき、平成27年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成27年度の新役員は、以下のとおり。

○顧問：河野 徹（土42）

○会長：友近 榮治（土48）

○幹事：山本 英樹（土53）、國富 和真（海53）、武名 裕史（海57）、  
藤田 康司（土4）

○評議員：山下 明（土48）、黒川 重男（土55）、平松 浩彰（土58）

### 4) 平成27年度事業計画について

事務局より、総会資料－ 4 に基づき、平成27年度事業計画（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。



なお、同窓会活性化、会費増収のための意見が出され、事務局を中心に検討し、可能なものから実施することとなった。おもな意見は後述（6 その他）する。

## 5) 平成27年度予算について

事務局より、総会資料－5に基づき、平成25年度予算（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

## 6) その他

- 平成26年度事業計画によって決定された長年支部に貢献された功労賞について、役員会において近畿支部事務局の清水義博氏を推薦することを決定し、その後の総会において土木海洋会会長河野徹氏から賞状を授与した。
- 平成27年度以降の土木海洋会の新会長として役員会において友近榮治氏を推薦し、総会において平成27年度事業計画の審議開始時に河野会長から交代し、友近新会長の挨拶として、土木海洋会の今後の展望を述べた。
- 同役員会では同窓会活性化、会費増収のための意見が出され、事務局を中心に検討し可能なものから実施することとなった。主な内容は以下の通り。
- 年会費の収集状況について、昭和57年までの卒業生は49%の割合で多く、平成4年までは30%、平成9年までは20%、以降の卒業生は約10%と減少傾向にあると木下委員から報告があり、この報告を受けて、出席者から土木海洋会の認知度を上げることも重要であるとの意見があった。その中で昨年度の総会で土木海洋会の名称変更についての議論があり、関東支部からの名称案が幾つか出されたが、他の支部は名称を変えないまたは意見無しとの回答を得た。結果として当面は名称変更をせず、環境建設工学科の卒業生の割合が多くなった時期に土木海洋会の名称を検討することとした。
- 土木海洋会の運営費について、総会の案内等の連絡をメールで配信することで郵便・通信費を削減する案に基づいて、メールまたは郵送で案内を受け取るかの選択ができる方法を検討することが提案された。
- 平成26年度の総会で検討した工業会の予算を活用するという意見があったが、土木海洋会が工業会の下部組織ではなく、他学科も援助を受けていないことから現時点では困難であると判断した。別の活用方策を考えることが必要である。
- 長期会費滞納者についての取り扱いについて質問があったが、5年以上支払いが無い場合は名簿発送中止としているとの回答が事務局よりあった。但し名簿にある情報は消さない。



功労賞授与式



平成27年度・愛媛大学土木海洋会総会（愛媛大学校友会館）

## 愛媛大学土木海洋会 会計報告

平成26年度 決算報告書  
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

| 収 入 (円)        |           | 支 出 (円)      |           |           |
|----------------|-----------|--------------|-----------|-----------|
| 前年度予備費         | 899,458   |              | (予 算)     | (決 算)     |
|                |           | 印刷費          | 950,000   | 941,846   |
| 年会費            | 2,565,000 | 郵便・通信費       | 600,000   | 756,296   |
|                |           | 旅費           | 550,000   | 403,000   |
| 広告掲載料<br>(23社) | 500,000   | (教員派遣、総会出席)  |           |           |
|                |           | 支部援助金        | 400,000   | 400,000   |
|                |           | 援助金          | 100,000   | 93,000    |
| 利息             | 163       | (学内、同窓会、同期会) |           |           |
|                |           | 会議費          | 10,000    | 4,658     |
| 寄付金・その他        | 162,000   | 謝金           | 700,000   | 633,700   |
|                |           | 雑費(手数料)      | 150,000   | 95,611    |
|                |           | 事務費          | 50,000    | 32,358    |
|                |           | (PC消耗品、文具)   |           |           |
|                |           | 小 計          | 3,510,000 | 3,360,469 |
|                |           | 次年度繰越金       |           | 766,152   |
| 合 計            | 4,126,621 | 合 計          |           | 4,126,621 |

上記について会計監査の結果正に相違ありません

平成27年7月29日

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 監 査 | 松木 三郎 | ㊞ |
| 監 査 | 大門 和敬 | ㊞ |

## 資料－５

平成27年度愛媛大学土木海洋会 予算（案）  
（平成27年４月１日～平成28年３月31日）

| 収 入（円）              |           | 支 出（円）              |           |           |
|---------------------|-----------|---------------------|-----------|-----------|
| 項 目                 | 金 額       | 項 目                 |           | 金 額       |
| 前年度予備費              | 766,152   |                     | (26年度決算)  | (予 算)     |
| 平成27年度会費<br>(1000口) | 3,000,000 | 印刷費                 | 941,846   | 950,000   |
| 広告掲載料<br>(25社)      | 500,000   | 郵便・通信費              | 756,296   | 600,000   |
| 寄付金                 | 200,000   | 旅費<br>(教員派遣、総会出席)   | 403,000   | 550,000   |
| 利息                  | 150       | 支部援助金               | 400,000   | 400,000   |
| その他                 | 0         | 援助金<br>(学内、同窓会、同期会) | 93,000    | 100,000   |
|                     |           | 会議費                 | 4,658     | 10,000    |
|                     |           | 謝金                  | 633,700   | 700,000   |
|                     |           | 雑費<br>(文具、手数料)      | 127,969   | 200,000   |
|                     |           | 小 計                 | 3,360,469 | 3,510,000 |
|                     |           | 次年度繰越金              |           | 956,302   |
| 合 計                 | 4,466,302 | 合 計                 |           | 4,466,302 |

# 参考資料

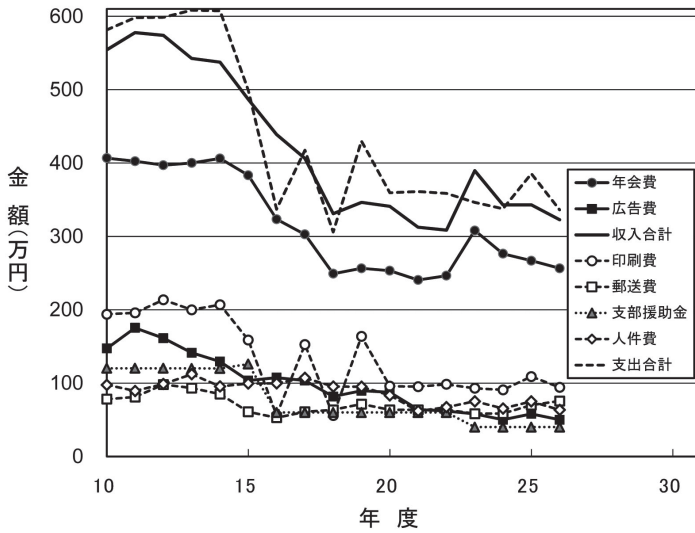


図-1 収支の経年変化

(実線：収入，破線：支出 主な項目と合計を記載)

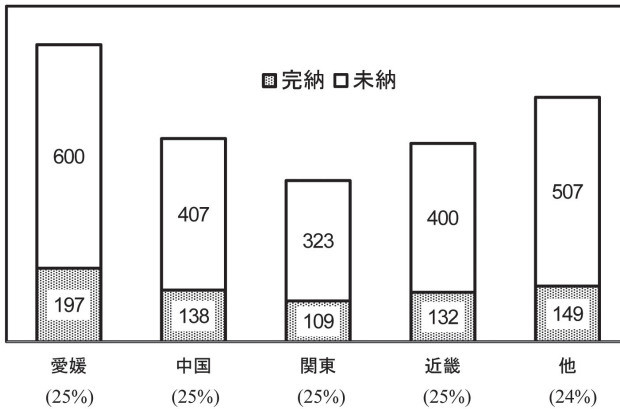


図-2 支部別会費納入状況（平成26年度）

(完納と未納の会員数，支部名下の数値は納入率)

※年代別納入状況など他の集計については次号以降に掲載予定です。

## 事務局だより

### 1. 会費についての内規

平成12年より70歳以上の会員の会費は免除することにしております。また60歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

#### 会費についての内規

1. 会費は、年額3,000円とする。ただし、70歳以上の会員の会費は免除する。
2. 60歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、60歳以上65歳未満の会員に対しては、20,000円、65歳以上の会員に対しては、10,000円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

### 2. 会合への助成金制度

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思います。下記の細則2の提出物を添えてお申し込みください。事前のご相談もお受けいたします。

〈同期会・研究室同窓会・職場班会・地区同窓会などに対する助成金制度〉

助成金額：出席者会員1名当たり1,000円を上限とする。ただし、会員5名以上の会合で、助成最高額は50,000円とする。

#### 上記助成金制度の細則

##### 細則1. 助成対象

出席者の全員または一部が会員である会合に対し助成する。

##### 細則2. 本部事務局への提出物

1. 案内状1部（土木海洋会への会費納入催促の文をなるべく記載のこと）



2. 最終出席者名簿 1 部（氏名、卒業学科・年、その他（勤務先、住所など）
3. 集合写真 1 枚（日付入り）
4. 住所変更の報告
5. 土木海洋会だよりへの投稿原稿

#### 細則 3. 助成回数

同一組織による会合への助成は、年度内において 1 回とする。

上記の助成は、平成 9 年度より実施する。

### 3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧ください。支部行事、会合の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

土木海洋会ホームページアドレス <http://www.cce.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

### 4. 土木海洋会だよりへの投稿のお願い

毎年12月に発行しております「土木海洋会だより」への掲載記事を募集しております。

個人・グループの近況、活動報告、技術記事などを寄稿ください。掲載ご希望の方は事務局までご連絡ください。

## 愛媛大学土木海洋会だより 第21号

---

発 行 日 平成27年11月30日

発 行 者 愛媛大学土木海洋会

〒790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学工学部環境建設工学科内

☎ 089-927-9823

F A X 089-927-9823

E メール dokai@cee.ehime-u.ac.jp

郵便振替 加入者名：愛媛大学土木海洋会

口座番号：01640-6-37779

銀行口座 加入者名：愛媛大学土木海洋会

伊予銀行城北支店（支店番号150）

普通口座 150-1-1231698

ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店

当座 0037779

---

**土木海洋会**

**検 索**

土木海洋会ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

メールアドレス

[dokai@cee.ehime-u.ac.jp](mailto:dokai@cee.ehime-u.ac.jp)

愛媛大学工学部環境建設工学科ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp>